



市民国際理解推進事業 ～学校や地域での国際理解の推進を図るため「自分ができるところは何か」を考える

(財)北九州国際交流協会事業推進課長
情報サービス課長

藤野 茂
内徳 誠治

はじめに

北九州市においては、近年、外国籍住民や外国人・帰国児童生徒が増加してきており、「学校や地域での国際理解の推進」が課題として、浮上してきています。

平成一六年度、(財)北九州国際交流協会は、(財)自治体国際化協会の先導的施策支援事業の助成を得て、このような課題の解決を図るため、後述の事業を実施しました。

国際理解教育の推進 「インターナショナルキャンプとその背景」

北九州市には、永住者、留学生、研修生など約一万人の外国籍住民が在住しており、近年、特に留学生の増加が顕著になっています。このような状況の中で、地域レベルでの国際理解の推進が重要になってきています。

これまで、当協会では、国際理解教育の支援のため、国際交流員や「国際交流人材バンク(後述)」に登録している外国人のボランティアを講師として、学校や公民館へ派遣してきました。また、JICA九州をはじめとした他機関でも類似の制度が実施されてきました。

また、当協会では、国際理解教育の現場と資源をつなぐためのコーディネート機能の一環として、講師派遣制度紹介の冊子をまとめる作業も行ってきました。

一方、本市の学校現場においても、総合的な学習の時間の中で、国際理解教育の取り組みが増えてきており、小中学校の教員による国際理解を研究するグループの活動も活発です。

このような事業の中核として、中学生と中学校の教員を対象に実施した国際理解教育の体験型事業が「インターナショナルキャンプ」です。これは、当協会が入所している国際村交流センターやJICA九州の施設を使って、JICA研修員や海外青年協



↑「JICA研修員に日本語を教えよう」の1コマ

力隊のOBも講師として参加する異文化体験を目的としたワークショップ形式の事業で、内容は次のとおりです。

〈アイスブレイキング〉
さまざまなゲームで参加者の緊張を解き、グループを仲良く和やかにします。

〈異文化理解ワークショップ〉

トランプゲームで異文化を理解します。

〈JICA研修員に日本語を教えよう〉

〈地球生活体験学習〉

さまざまなテーマのブースがあり、参加者は、ブースを回って、世界の生活を体験します。

〈グループワーキング〉

一日の活動を壁新聞にまとめます。

へ研修員との交流会

実施団体は、北九州市、北九州市国際理解教育研究会、独立行政法人国際協力機構九州国際センター、九州海外協力協会、北九州国際交流協会です。関係者が企画段階から協力して、事業を実施していくプロセスをとおして、国際理解教育のネットワークづくりにも役立っています。

参加教員からは、「プログラム内容や参加中学生のいきいきとした反応を見ることができました。学校現場に還元したい」との声が上がっており、当協会も、インターナショナルキャンプ事業を契機とした現場での国際理解教育への成果の広がりを見込んでいます。

「国際交流人材バンク制度」及び「国際人リソースバンク制度」の整備と活用

△「国際交流人材バンク制度」について

市民の異文化に対する理解を深め、また市内在住外国人のさまざまな能力・特技を活かすため、登録していただいた外国人講師を、地域の公民館や小中学校等に派遣し、出身国の伝統芸能や文化の紹介、民族楽器の演奏等を通じて、市民との交流及び市民の国際理解の促進を図る制度です。

平成一七年三月末現在の国際交流人材バンクへの講師登録者数は、一五カ国/地域・三九名で、年間三一件の派遣を行っています。

した。

△「国際人リソースバンク制度」について

市内在住の日本人の語学力をはじめとした特技や資格、経験などを国際交流や国際協力に活かすため、日本人講師として登録してもらい、外国人支援を図る制度です。

その中で、特に、日本語が苦手なことから日本での生活になじめない、あるいは授業についていけないなどの悩みを抱える外国人児童生徒のために、「外国人児童生徒サポーター」事業を盛り込み、子どもと母親を話せる市民を小中学校にいつでも派遣できるように制度化しています。

平成一七年三月末現在の国際人リソースバンクへの講師登録者数は六四名で、年間四四件の派遣を行いました。

当協会ではこれらについてポスター・チラシを作成し、事業の普及活動を行っています。

今回は、国際交流人材バンクからの外国人講師の派遣事例を一例紹介します。

企画内容：「日本の森・世界の森」をテーマとした交流イベントへの講師派遣

日時・場所：平成一六年九月二五日(土) 九時～一二時 山田緑地(小倉北区)にて

派遣人数：五カ国五名を派遣
派遣記録から：秋雨の続いていた九月のある土曜日、山田緑地に市内の小学生が集まり「世界の森」をテーマに五カ国(韓国・中国・インドネシア・ウズベキスタン・ドイツ)五

名の外国人講師と交流しました。

△中略△子どもたちは五つのグループに分かれ、「外国人講師と一緒に森の絵を描く1コマ

師と一緒に森の絵を描く」という課題に対し、各グループは各国の特徴をよくイメージして森の絵を完成させ、全員の前で発表しました。

おわりに

「市民国際理解推進事業」により、普段身近にいながら接点の少なかった市内在住の日本人と外国人双方に「自分ができること」について考えるきっかけを与え、各人の経験や特技を生かせる活動の場を提供することができました。そのことは交流を促進し、互いに理解を深め合う上で効果的でした。

市内在住の日本人と外国人の両方に焦点を当て、両者の理解を深めていく点で大変意義があることから、当協会では今後もし引き続き事業の充実と発展を図っていきたいと考えています。



↑完成した絵をもとに全員の前で発表するグループ



↑外国人講師と一緒に森の絵を描く1コマ